街路のような緑豊かな通り抜け空間

2016年 第57回
BCS賞受賞作品紹介

龍谷大学 和顔館

選評

一九六〇年に京都市伏見区に開設された龍谷大学・深草キャンパスには、現在約一二、〇〇〇名の学生が在籍している。その中で二〇一五年に開館した和顔館は、新学部である国際学部の教育・研究に対応する諸室、ならびに図書館で構成されている。その名が、大無量寿経の「和顔愛語」（穏やかな顔や優しい言葉で人と接する）という言葉に由来するように、学びにおける柔らかなコミュニケーションを促す場として計画された。東西一四七メートルに延びる棟の一階には人が集まるスペース、地階に大教室、二階、三階に小規模教室、四階、五階に研究室群を置き、さらに多層階にわたる図書室を組み合わせた複合的なプログラムであるが、開放的なスラブの上でそれらをすっきりとまとめ、外部階段やブリッジや光庭を巧みに用いることで人の流動をスムーズにかたちづくっている。また、多様な教育に対応する教室のフレキシビリティや、移動時に感じる情景の変化などが、学ぶ者・教える者の五感に訴え、創造性を引き出している。既存棟群とは異なった開放感を持つ、みずみずしい印象を与える建築である。

さらに、一階部分においてキャンパス北側に接する一般道路への閉鎖感を解消し、豊かな地域環境づくりに寄与した。こうしたさまざまな取り組みは設計者のコントロールのもと、施工側が的確に呼応して実現した、高い精度のディテールによって支えられている。とりわけスラブ厚の統一、最小幅を目指したサッシ方立、工場製作に由らない階段のささらなどは、視覚的な美しさを獲得するためだけではなく、短工期で確実に完成させるための、合理的・現実的な方策でもある。ここでは設計者と施工者の緊密な、それぞれの長所を活かしたチームワークが奏功している。

外観における開放的な表情は、規則的に配置されたコアに耐震要素を集約させることで実現したものであるが、コアの壁を煉瓦タイ

上／キャンパス中庭を強調する南棟立面
中／カフェが併設されたエントランスとなる広場空間
下／統一された天井材やレンガタイルにより、室内外が連続して見える。

BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計、施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。
この賞は、1960年にはじまり2016年で57回を数えます。

< 2016年 第57回 BCS賞受賞作品 > 飯野ビルディング　大手町タワー／大手町の森　京都国立博物館 平成知新館　グランフロント大阪
高志の国文学館　ザ・リッツ・カールトン京都　住田町役場　東京スクエアガーデン　流山市立おおたかの森小・中学校、おおたかの森センター、こども図書館
日清食品グループ the WAVE　穂の国とよはし芸術劇場PLAT　八幡厚生病院本館　山梨学院大学国際リベラルアーツ学部棟　Ribbon Chapel　**龍谷大学 和顔館**
［特別賞］札幌市北3条広場・札幌三井JPビルディング
日本橋室町東地区開発：室町東三井ビルディング、室町古河三井ビルディング、室町ちばぎん三井ビルディング、福徳神社

建築主より

学生の主体的な活動を支援する教育・研究環境を整備

学校法人龍谷大学
前龍谷大学学長
赤松徹眞
Tesshin Akamatsu

深草キャンパス「和顔館（わげんかん）」は、2020年の龍谷大学像として示している、自律的に行動する学生の育成、優れた研究基盤の形成、多文化共生キャンパスの実現等に資する施設として整備しました。

多くの学生が利用する東門からの動線を考慮し、授業（教室）・研究（研究室）・学修（図書館・コモンスペース）のつながりを意識した配置を行っています。また、可能な限りコンクリート壁を減らし、ガラスを多用することで、内部で行われている様々な活動を可視化し、カフェの設置をはじめ、各所に交流スペースを整備することで、様々な交流が推進できる空間を設けています。

学生達は、この和顔館で活き活きと学び、キャンパス内で充実した時間を過ごしており、龍谷大学が知性と活気に溢れる大学に発展することを大いに期待しています。

設計者より

これからの教育理念そのものの和顔館

株式会社
飯田善彦建築工房
代表取締役
飯田善彦
Yoshihiko Iida

和顔館は、龍谷大学が社会に向けて表明した、これからの教育理念そのものといっても過言ではありません。図書館、大講義室、小講義室、研究室などが集積するプログラムですが、その中にスチューデントコモンズと呼ばれる学生の居場所にもなる自主的学習空間が散りばめられています。建築は、これらすべての用途を相互の関係を調整した上でスラブを積層した空間に配置し、開かれた環境を実現すべく作られています。すべての活動が可視化すること、授業やセミナー、自習、お昼休み、大学にいる時間が互いに見えることで、学生にとって自分の位置が相対化され自分がやっていることが意識化される。多様な居場所が選択性を格段に増やし、大学にいる時間も多彩になっています。図書館の利用者が1.5倍になったりコモンズに学生があふれているのも大学の理念が受け入れられ、現実化したことを示すものでしょう。

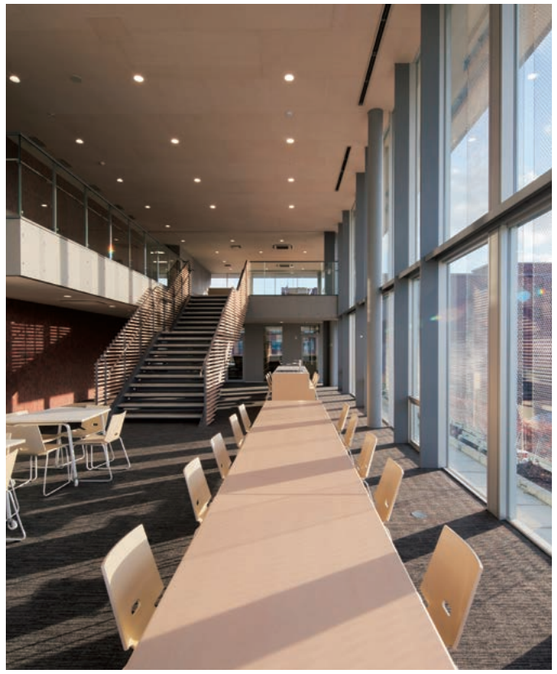
BCS賞は、新しい教育環境を実現させた大学、設計者、施工者、三者の連携を評価してくれたと受け止めています。ありがとうございました。

施工者より

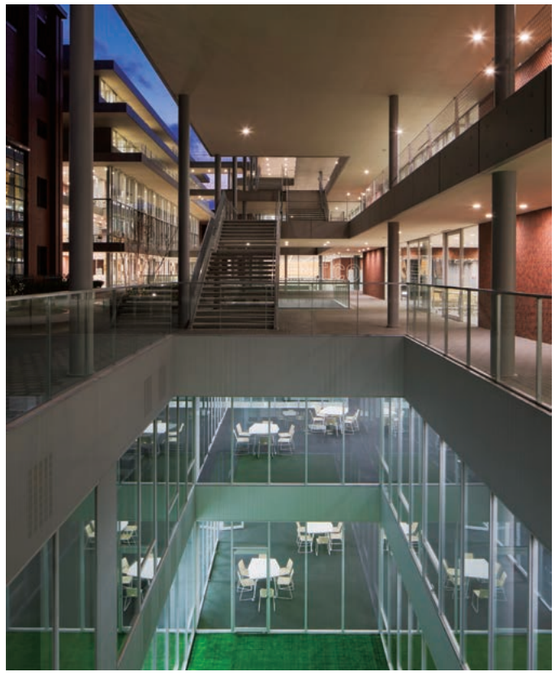
三位一体のものづくりで最良の作品をつくり込む

株式会社竹中工務店
京都支店作業所長
中元 修
Osamu Nakamoto

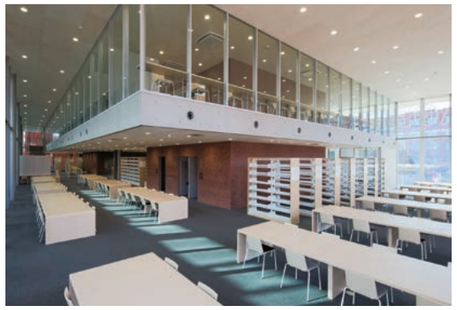
龍谷大学深草学舎「和顔館」は旧1号館の解体跡に敷地一杯に計画されており、施工にあたってはキャンパス内を通行する学生の動線確保や短工期での引渡しといった諸条件をクリアするために逆打工法を採用しました。地下と地上を同時施工したことで工事用車両の動線と作業床の確保までもが可能になったとともに、近接する既存校舎への騒音による影響を低減することが可能となり、結果として工期内に無事故で建物を完成させることができました。また、建築主・設計者・施工者が三位一体となってスケジュール管理とコストの合理化を推進したことで、高品質・高機能でありながら安価なランニングコストと容易なアフターメンテナンスを実現させることができました。完成した建物がキャンパスの景観や豊かな地域環境づくりに寄与していくことを願っています。



交流を誘発する研究室ラウンジ



街路空間。光庭を通じて各階に活動が繋がる。



上／活動が可視化された小規模講義室群
中／開放的な地上階閲覧空間
下／落ち着いた環境の地階閲覧空間

ルで仕上げることで重厚さを持つ既存棟とイメージを連続させたものであり、設計者のキャンパス景観に対する理解の深さが表れている。こうした成果を含めた和顔館でのチャレンジは、一六三九年に起源を持つ龍谷大学の伝統を継承しながら、多文化共生キャンパスへの進化を目指してゆく同学の理念を体現したものと言えよう。

［選考委員］
木下庸子・佐野吉彦・栗山茂樹

計画概要

建築主：学校法人 龍谷大学
設計者：㈱飯田善彦建築工房
施工者：㈱竹中工務店
所在地：京都府京都市伏見区深草塚本町67
竣工日：平成27年1月31日
敷地面積：58,151㎡
建築面積：5,721㎡
延床面積：27,612㎡
階数：地上5階、地下2階、塔屋1階
構造：鉄骨造、鉄筋コンクリート造（一部鉄骨鉄筋コンクリート造）